

冷戦終結で実現した 東西ヨーロッパの統合

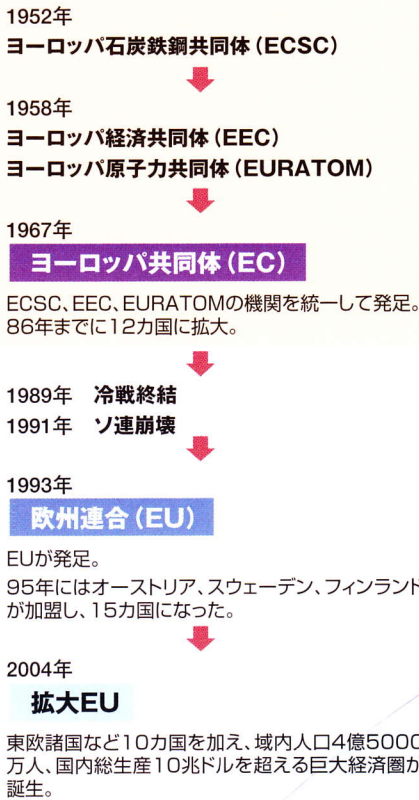
2つの世界大戦の反省から
始まった西ヨーロッパの統合

第二次世界大戦後の経済復興期、西ヨーロッパでは、地域経済の統合によって米・ソに対抗しうる第3の経済圏を形成する動きが早くからみられていた。その原型となったのは、フランスのシューマン外相が提案したヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(EECS)の設立である。このEECSの設立には、2つの世界大戦の遠因となった仏・独間の伝統的対立を解消し、戦争に不可欠な石炭と鉄鋼の生産を共同管理して、欧州の平和を維持する意図があった。

1952年にフランス、西ドイツ、イタリア、ベネルクス3国で発足したEECSは、石炭・鉄鋼業の共同市場構築や関税撤廃を進め、加盟国の石炭・鉄鋼業は急速に発展した。EECSの成功により、ヨーロッパでは地域経済統合の動きに弾みがつき、58年のローマ条約の発効でヨーロッパ経済共同体(EEC)とヨーロッパ原子力共同体(EURATOM)を結成。今日の欧州連合(EU)への基礎が築かれた。

EUの誕生で加速する
東西ヨーロッパの統合

ヨーロッパの統合



は消極的だったイギリスは73年に、80年代にはスペインやポルトガルも加わり、ECは12カ国が加盟する共同体となった。さらに、域内の人、モノ、サービスの流通に関する障壁を取り除いた単一市場の形成を旨としたECは、93年に発効したマーストリヒト条約で、ECを拡大強化した欧州連合(EU)が発足した。2004年には民主化が進んだ東欧諸国などが加わり、EUは25カ国が加盟する拡大EUとなった。この東欧諸国のEU加盟は、冷戦の終結で分断の歴史に終止符をうった東西ヨーロッパが、統合という新たな段階に入ったことを示す出来事となった。



1993年
1993年
冷戦終結後、東欧諸国は、EU加盟の条件を満たすため、民主化、経済自由化を進めた。そして一挙に10カ国が加盟して拡大EUが誕生。

1993年
欧州連合 (EU) の誕生
ECを拡大強化した地域共同体。単一通貨の導入、域内の市場統一を旨とする。

1967年
ECの誕生
フランス、西ドイツ、イタリア、オランダ、ベルギー、ルクセンブルクの6カ国で誕生。域内の人、モノ、サービスの移動自由化を目指す。

EUの東方拡大
冷戦終結後、東欧諸国は、EU加盟の条件を満たすため、民主化、経済自由化を進めた。そして一挙に10カ国が加盟して拡大EUが誕生。

トルコのEU加盟
ヨーロッパに接し、イスラム教徒が多数を占めるトルコ。EUの移民問題も絡み、トルコのEU加盟には慎重な意見も多い。

- EC原加盟国 (1967年)
- EU原加盟国 (1993年)
- 拡大EU加盟国 (2004年)
- EU未加盟のヨーロッパ諸国
- 旧ソ連諸国